

イノン L 型光 D ケーブル・キャップ W35 セット クリアフォトシステムフィルム付

イノン製品のお買い上げ有難う御座います。

イノン L 型光 D ケーブル・キャップ セット シリーズ は、マリンスノ現象、及びゴースト/フレアの発生を有効に抑制する、「イノン クリアフォトシステム (PAT. P.)」を採用した、対応するデジタルカメラハウジング / マウントベースと弊社デジタルカメラ対応ストロボとを接続する光接続ケーブルです。

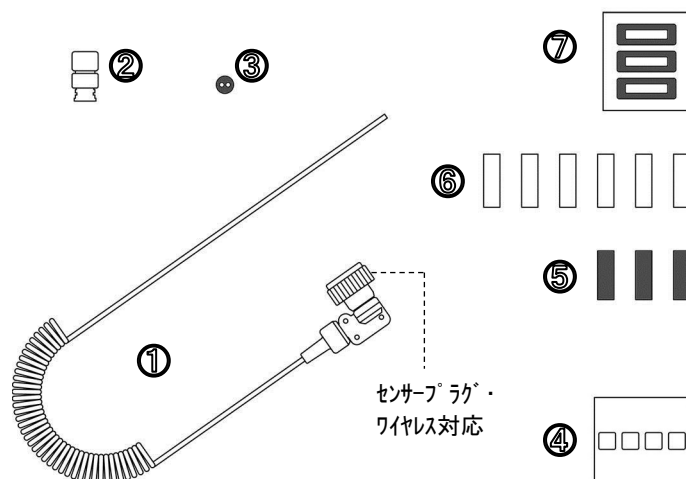
本キャップ W35 セットは、パナソニックのデジタルカメラ用純正ハウジング「DMW-MCFT5」、「DMW-MCFT4」、「DMW-MCFT3」、「DMW-MCFT2」、「DMW-MCFT1」、「DMW-MCTZ40」、「DMW-MCTZ35」、「DMW-MCTZ30」、「DMW-MCTZ20」、「DMW-MCTZ10」、「DMW-MCTZ7」、「DMW-MCTZ5」、「DMW-MCTZ3」、「DMW-MCFX40」、「DMW-MCFX35」、「DMW-MCFS5」、「DMW-MCFX30」専用となります。

製品の主な特徴

- 光ファイバーを用いた「光 D ケーブル接続」により、従来のワイヤレスケーブル接続に比べ、水面直下や逆光といった外光の多い条件下でも、より確実にケーブル発光を可能としています。
- 「クリアフォトシステム」を採用して、「光 D ケーブル接続」の確実性を維持しつつ、フロントボディの透明な純正ハウジングの欠点であった、デジタルカメラ内蔵ストロボによるマリンスノ現象、及びゴースト/フレアの発生を効果的に抑制し、クリアな画像を得る事が可能です。
- ストロボとの接続に使用する「L 型光 D ケーブル」を 2 本まで固定可能な為、2 灯システムにも容易に対応可能です。

製品内訳

- | | |
|-------------------------|-----|
| ・ L 型光 D ケーブル ① | × 1 |
| ・ キャップ W35 ホルダーユニット本体 ② | × 1 |
| 光ガイドキャップ W35 | × 1 |
| キャップ固定ダイヤル | × 1 |
| 光ファイバ固定ダイヤル | × 1 |
| 光ファイバ固定ゴム | × 1 |
| ・ 予備光ファイバ固定ゴム ③ | × 1 |
| ・ ミラーシール ④ | × 4 |
| ・ クリアフォトフィルム ⑤ | × 3 |
| ・ 保護フィルム ⑥ | × 6 |
| ・ フィルムシール ⑦ | × 3 |
| ・ 使用説明書 (本書) | × 1 |



対応カメラハウジング (2014 年 4 月現在)

- ・ パナソニック DMW-MCFT5
- ・ パナソニック DMW-MCFT4、DMW-MCFT3
- ・ パナソニック DMW-MCFT2、DMW-MCFT1
- ・ パナソニック DMW-MCTZ40、DMW-MCTZ35、DMW-MCTZ30、DMW-MCTZ20、DMW-MCTZ10
- ・ パナソニック DMW-MCTZ7
- ・ パナソニック DMW-MCTZ5
- ・ パナソニック DMW-MCTZ3
- ・ パナソニック DMW-MCFX40
- ・ パナソニック DMW-MCFX35
- ・ パナソニック DMW-MCFX30
- ・ パナソニック DMW-MCFS5

接続対応ストロボ (2018 年 5 月現在)

- L 型光 D ケーブルをそのまま、取付け可能な機種 (ワイヤレス “対応” ストロボ)**
- ・ イノン Z-330、S-2000、Z-240 【Type4】、D-2000 【Type4】

L 型光 D ケーブルのセンサープラグを、「センサープラグ・ワイヤレス非対応」(別売)へ交換する必要がある機種 (ワイヤレス “非対応” ストロボ) (※)

- ・ イノン Z-240 【Type3/Type2/Type1】、D-2000 【Type3/Type2/Type1】
D-2000W、D-2000Wh、D-2000S、D-180、D-180S、Z-220F、Z-220、Z-220S
- ・ イノン TTL 調光センサー Z + イノン Z-22
- ・ イノン TTL 調光センサー SB + 対応する TTL オートストロボ
- ・ イノン TTL 調光センサー YS + 対応する TTL オートストロボ
- ・ イノン フォーカスライトコントローラー + イノン Z-220F/Z-220S/Z-220/Z-22



「センサープラグ・ワイヤレス非対応」
【別売】

(※) 交換方法については、「センサープラグ・ワイヤレス非対応」付属の「ストロボ側 L 型コネクタ仕様変更手順書」をご参照の上、センサープラグの交換を行ってからご使用下さい。

接続方法 : 本製品による光 D ケーブル接続には、以下の 2 パターンが可能です。撮影条件やご使用用途により、適宜お選び頂けますが、通常は (A) 接続をお勧め致します。

- (A) **クリアフォト接続** : クリアフォトシステムを用いた通常の接続法。(※) **【第一選択】**
(B) **従来接続** : カメラ単独での撮影(内蔵ストロボ ON)を行う場合が多く、その都度クリアフォトフィルムを外す事が困難な場合。(※※) **【第二選択】**

※ : クリアフォトシステムのご使用には、タビリング毎の点検、及び劣化前の交換が必要です。消耗品である、クリアフォトフィルム/保護フィルムが劣化した状態のまま撮影を続けると、カメラ内蔵ストロボ部も同様に劣化する場合があります。ご留意下さい。詳細は本書“クリアフォトフィルム/保護フィルムの点検作業について”の項をご確認下さい。

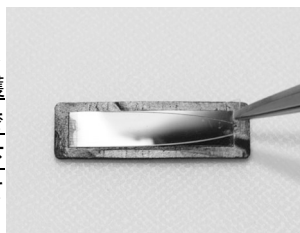
※※ : 上記クリアフォトシステムの点検/交換が面倒な場合のみ、クリアフォトシステムを使用しない事により、調光精度が低下したり、組み合わせるオプションによっては得られる画像に問題点が発生する場合があります。ご留意下さい。詳細は本書末の囲み記事をご確認下さい。

取り付け方法

接続法 (A) のみ

- ・ **フィルムユニットを準備し、カメラに装着します**

粘着面を上にしたフィルムシールに、クリアフォトフィルム(黒色)、保護フィルム(透明)各 1 枚を順に貼り付けます。保護フィルム(透明)はカメラ内蔵ストロボを保護する為の物ですので、ストロボに接する側(内側)に貼り付けて下さい。作成したフィルムユニットを、カメラの形状に合わせて内蔵ストロボ部へ貼り付けます。



接続法 (A) / (B)

- ・ **ハウジングを準備し、ミラーシールを取り付けます**

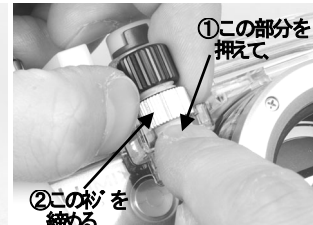
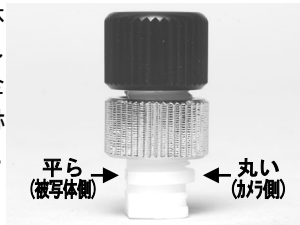
ハウジング 付属の取扱説明書に従い、「拡散板」を外した状態で、“カメラユニット取付部”の右画像で示した部位にミラーシールを貼り付けます。



接続法 (A) / (B)

- ・ **キャップ W35 カメラユニット本体を、ハウジングの“カメラユニット取付部”へ取り付けます**

“カメラユニット取付部”に、キャップ W35 カメラユニット本体の丸い部分をカメラ側、平らな部分を被写体側として嵌めた後、右図の通り、キャップ W35 カメラユニット全体がぐらつかない様、必ず指で押えながら [①]、カメラ固定ネジを締め [②]、しっかりと固定します。



接続法 (A) / (B) マウントベース / レンズアダプターベースを使用する場合

28AD/AD マウントベース、28AD マウントベース、或いは M67 レンズアダプターベースをハウジングへ取り付けます

各マウントベース/レンズアダプターベース付属の使用説明書を参考にして、ハウジングへ取り付けます。

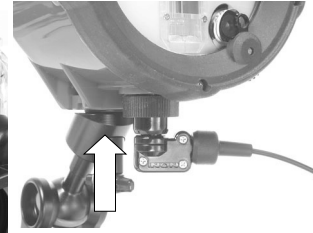
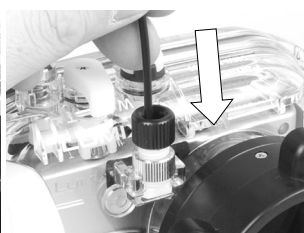
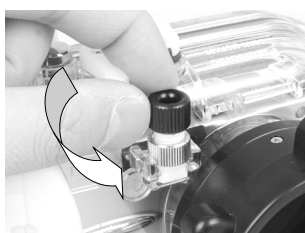


接続法 (A) / (B)

- ・ **L 型光 D ケーブルを取り付けます**

光ファイバ固定ダイヤルを左図の様に回して緩めてから、光ファイバ固定ゴムの穴に L 型光 D ケーブルのケーブル断端側を差し込み、奥まで達している事を確認後、光ファイバ固定ダイヤルを振じ込んで固定します。L 型光 D ケーブルは 1 本のみでも、2 本同時でも、どちらでも固定する事が可能です。

L 型光 D ケーブルのケーブル側断端の取り付けが終了した後、コネクタ側をストロボのセンサー部に取り付けます。



- 使用上の注意
- ・ L 型光 D ケーブルは超耐久仕様(最小曲げ半径 2mm)となっておりますが、それ以上曲げたり、強い刺激が加わったりすると、内部で折れる可能性があります。また、長時間曲げたままにすると形状が記憶されてしまいます。正常に信号が伝わらなくなりましたら、おオプションの「交換用光ファイバー・L 型光 D ケーブル/L 型光ケーブル M 用」と交換して下さい。
 - ・ L 型光 D ケーブルをハウジングやストロブに接続した状態で、ケーブルを持ってそれらを持ち運ぶなどすると、光ファイバーが L 型コネクタから外れたり、ストロブ/L 型コネクタ/光ファイバー等が破損する恐れがあります。このような扱いは避けて下さい。
 - ・ フィルムシール、クリアフोटフィルム、保護フィルムは複数回の使用が可能です。陸上での使用等、フィルムユニットを取り外した際には、フィルムシールの台紙に張り戻して保存する事をお勧めします。
フィルムシールの粘着力がなくなった/クリアフोटフィルムが破損した等、交換が必要な場合には、おオプションの「クリアフोटフィルム 光 D ケーブル・キャップ W7/W13/W14/W19/W24/W25/W26/W35/W43/W46 セット用」をご使用下さい。

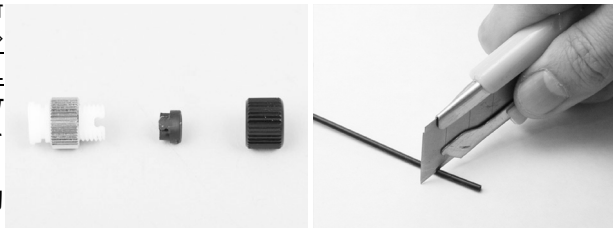
- クリアフोटフィルム/保護フィルムの点検作業について
- ・ クリアフोटフィルムは赤外線のみを透過させるフィルターであり、通常は内部に熱を蓄積する事はありませんが、当製品は基本的に消耗品であり、使用を繰り返す事により赤外線の透過性能が低下します。
カメラ内蔵ストロブの発光回数一回当たりの発光量が、他機種と比べて大きいデジタルカメラにてクリアフोटフィルムをお使い頂く場合、あるいは、(弊社ストロブにはアンプ内蔵キャンセル回路が搭載されており、一般的なご使用条件では発生する事はないと考えられますが)カメラ内蔵ストロブを常にフル発光させるような場合は、発光時の熱による劣化が相対的に著しくなり、使用を重ねる事で焼け/溶解といった現象を起こし、光を透過させない状態となります。
この状態のままご使用を続けられますと、カメラ内蔵ストロブユニット内部に熱が蓄積され続け、結果的にカメラ本体の内蔵ストロブプリズム部に熱変形が生じる恐れがあります(※)。
 - ・ 当現象を回避するために、弊社製クリアフोटフィルムを貼付けてご使用頂く場合[接続法(A)でご使用頂く場合]、必

- ・ ダイレクティング後必ず[クリアフोटフィルム/保護フィルム]の状態をご確認頂き、[クリアフोटフィルム/保護フィルム]に焼け/溶解の兆しが発生する前に新品と交換して下さい。
- ・ [クリアフोटフィルム/保護フィルム]の劣化を抑えるため、カメラ内蔵ストロブがフル発光するような状況での撮影はなるべく控え下さい。

ず、下記要領にてご使用毎の点検/交換作業、及びご使用状況の確認を行って下さい。

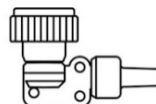
- ・ クリアフोटフィルムを使用せずにご使用頂く[接続法(B)でご使用頂く]事で、クリアフोटフィルム/保護フィルムの定期的な点検/交換作業を必要とせずにご使用頂く事が可能となります。
但し、クリアフोटフィルムを使用した場合に比べ、調光精度が低下したり、組み合わせるおオプションによっては得られる画像に問題点が発生する可能性があります。ご留意下さい。各制限事項の詳細は、本使用説明書末の囲み記事をご参照下さい。
- ※ 2014 年 4 月現在、カメラ内蔵ストロブの発光回数一回当たりの発光量が他機種と比べて大きい C-5060WZ/C-7070WZ の 2 機種においてのみ、該現象の発生を確認しており、その他機種での該現象の発生は確認しておりませんが、ご使用条件等によっては、同様な症状が発生する可能性があります。ご留意下さい。

- メンテナンスについて
- ・ ご使用後は、真水中(30℃以下)に数時間静置して塩分等をよく取り除いた後、エアー等で水滴を吹き飛ばし、直射日光の当たらない、風通しの良い場所に置き、乾燥させて下さい(完全乾燥には数日掛かります)。
 - ・ 特に 光ケーブル両端の光ファイバー断面は、キャップ W35 本体を外した状態で丁寧に洗い、塩分を良く落して下さい。光ケーブルの断面に傷が付いたり、塩分が残留して曇ってしまったりと、信号がうまく伝わらなくなる場合があります。
 - ・ 取り外したキャップ W35 本体は、構成部品を無くさない様注意して下さい。
 - ・ 上述の理由等で信号が伝わり難くなった場合や、ケーブルを短くして使用するには、必要に応じて光ファイバーを切る事が出来ます(L 型コネクタ側の光ファイバーを切断する場合は、弊社ホームページの『TOP>テクニカル>L 型光ケーブル分解組立』にて公開しております『L 型コネクタ仕様変更手順書』をご参照下さい)。光 D ケーブルの切断には、カミソリやカッターナイフ等、鋭利な刃物を使って下さい。
切断の際、光 D ケーブルの中心にある光ファイバーの切断面に凹凸が出来ると、光信号が伝わり難くなります。切断前の状態よりも断面の凹凸が酷くなった場合や、切断後に信号が伝わり難くなった場合は、切断作業をやり直して下さい。



- 各作業等を行うに 当たって
- 本書で説明を行っている「各作業」等は、ﾌﾞﾚｯﾀの製造元であるﾊﾟﾅﾈｯｸが関知している物ではありません。「各作業」等についてのご質問、お問合せ等は、決してﾊﾟﾅﾈｯｸに行わないで下さい。また、同様の理由により、「各作業」等を行う場合、お客様ご自身が全ての責任を負う必要がある事をご確認下さい。
 - 「各作業」等を行う事によって、ﾌﾞﾚｯﾀの保障期間内であっても、ﾊﾟﾅﾈｯｸの無償修理を受ける事が出来なくなる可能性があります。予めご了承下さい。ﾌﾞﾚｯﾀの保証条項詳細につきましては、各ﾊｳｼﾝｸﾞ 付属の使用説明書/保証書をご確認下さい。
 - 万一、「各作業」等を行う事によって不具合(ﾌﾞﾚｯﾀ本体、ﾌﾞﾚｯﾀ付属品、ﾌﾞﾚｯﾀ内にセットするｶﾏ本体等の不具合等)が生じた場合、弊社は一切、その責任を負いかねます。
 - 万一、「各作業」等を行う事によって浸水等の不具合が生じ、この不具合に起因する、付随的損害(撮影に要した諸費用及び撮影により得べかりし利益の喪失等)が発生した場合においても、弊社は一切、その責任を負いかねます。
 - 以上の注意事項、及び補償条項について、ご納得頂けない場合には、「各作業」等を行わないで下さい。未使用の場合に限り、関連製品の返品を受け付けます。詳細につきましては、弊社までお問合せ下さい。

- オプションについて
- L 型光 D ケｰﾌﾞﾙ ￥6,200-(税抜)
製品内訳画像中の①です。対応するｽﾄﾐｰ 2 台と、ｷｬｯﾌﾟ W35 ﾎﾙﾀﾞｰユニットとを直接接続する際、追加が必要となります。
 - 交換用光ファイﾊﾞｰ・L 型光 D ケｰﾌﾞﾙ/L 型光 ケｰﾌﾞﾙ M 用 ￥4,000-(税抜)
製品内訳画像中の、①からｽﾄﾐｰ 取付用のｺﾈｸﾀを除いた物です。
 - ｸﾘｱﾌ｛ﾄﾌ｛ﾙﾑ 光 D ケｰﾌﾞﾙ・
 - ｷｬｯﾌﾟ W7/W13/W14/W19/W24/W25/W26/W35/W43/W46 セｯﾄ用 ￥1,500-(税抜)
製品内訳画像中の、⑤、⑥、及び⑦のセットです。
 - ｷｬｯﾌﾟ W35・ﾎﾙﾀﾞｰユニット(予備部品付) ￥2,000-(税抜)
製品内訳画像中の、②、③、及び④のセットです。
 - ｽﾄﾐｰ 側 L 型ｺﾈｸﾀｷｯﾄ(ワイﾚｽ対応) [保守部品] ￥2,500-(税抜)
製品内訳図中の、①から光ファイﾊﾞｰを除いたｺﾈｸﾀユニットの交換ｷｯﾄです。
 - ｾﾝｻｰﾌﾞﾗｯｸ・ワイﾚｽ対応 [保守部品] ￥600-(税抜)
本製品に標準装備されている、ワイﾚｽ 対応、ｽﾄﾐｰ 用のｾﾝｻｰﾌﾞﾗｯｸです。
 - ｾﾝｻｰﾌﾞﾗｯｸ・ワイﾚｽ非対応 [保守部品] ￥600-(税抜)
ワイﾚｽ 非対応、ｽﾄﾐｰ 用のｾﾝｻｰﾌﾞﾗｯｸです。本製品を、ワイﾚｽ 非対応、ｽﾄﾐｰ (本書内「接続対応ｽﾄﾐｰ」の項参照)に使用する場合に、本製品のｾﾝｻｰﾌﾞﾗｯｸ・ワイﾚｽ対応と交換します。



有限会社 イノン 〒247-0061 神奈川県鎌倉市台 2-18-9
Tel. 0467-48-2174 / Fax. 0467-48-2178
E-mail support@inon.co.jp / URL http://www.inon.co.jp/
2018 年 7 月

※ 外部ｽﾄﾐｰを使用する際の注意点、特に、ｸﾘｱﾌ｛ﾄｼｽﾃﾑを用いないで外部ｽﾄﾐｰをご使用の際には・・・

ｸﾘｱﾌ｛ﾄｼｽﾃﾑを用いずに、外部ｽﾄﾐｰを(ｶﾏ内蔵ｽﾄﾐｰのｽﾚｰﾌﾞｽﾄﾐｰとして)使用する場合や、他の外部ｽﾄﾐｰと組み合わせて 2 灯以上の増灯を行う場合、撮影条件によっては、得られる 画像がオーバーとなる可能性があります。

この現象は、(ｶﾏ内蔵ｽﾄﾐｰを含め)多灯とする事でｽﾄﾐｰｼｽﾃﾑ合計の最小発光光量が大きくなり、調光範囲の最短側が長くなってしまいう事に起因します。特に、特定の(内蔵ｽﾄﾐｰ)の最小発光光量が比較的大きいｶﾏで、ｸﾘｱﾌ｛ﾄｼｽﾃﾑを用いず増灯を行い、最短撮影距離付近の撮影を行った場合、この現象が顕著に表れます(お手元のｶﾏの最小発光光量は、ｶﾏ単体で最短撮影距離付近の内蔵ｽﾄﾐｰ撮影を行いご確認ください)。以下の対策を行う事で、適正露出とする事が出来ます。ご確認ください。

- ｸﾘｱﾌ｛ﾄｼｽﾃﾑを使用する
- ｶﾏの絞りをより絞った状態に変更する
- ﾎﾙﾀﾞｰの位置を被写体から遠ざける
- 外部ｽﾄﾐｰに減光板等を取り付け、光量を落とす[対応する場合のみ/外部ｽﾄﾐｰ 付属の使用説明書をご確認下さい。]

また、この接続方法では、ｶﾏ内蔵ｽﾄﾐｰの光が完全に遮光されない為、ﾚﾝｽﾞ 前のｺﾞﾐ/浮遊物に可視光成分が反射して、ｱﾘｽﾉｰ現象が発生しやすくなる可能性があります。ご留意下さい。

※ ｸﾘｱﾌ｛ﾄｼｽﾃﾑを用いないで内蔵ｽﾄﾐｰを発光させ、ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄﾚﾝｽﾞをご使用の際には・・・

ｸﾘｱﾌ｛ﾄｼｽﾃﾑを用いずに、ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄﾚﾝｽﾞを取り付けた状態で内蔵ｽﾄﾐｰを発光させた場合、撮影条件、ｶﾏ/ﾊｳｼﾝｸﾞ/ﾏｳﾝﾄﾍﾞｰｽ/ﾚﾝｽﾞ/ﾌﾞﾗｯｸﾀｰﾍﾞｰｽの組み合わせ等によっては、得られる 画像にｺﾞｰｽﾄ/ﾌﾚｱが発生する可能性があります。

この現象は、透明なﾊｳｼﾝｸﾞを通過したり、ﾚﾝｽﾞﾎｰﾄ内部を通過したりした内蔵ｽﾄﾐｰ光が、ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄﾚﾝｽﾞのﾊｳｼﾝｸﾞ取り付け部側から進入/反射し、有害光として写り込む事に起因します。このような現象が発生する場合には、ｸﾘｱﾌ｛ﾄｼｽﾃﾑを用いた外部ｽﾄﾐｰ増灯をお勧め致します。ｸﾘｱﾌ｛ﾄｼｽﾃﾑを用いない内蔵ｽﾄﾐｰのみでの撮影はお勧め致しません。止むを得ず内蔵ｽﾄﾐｰのみでの撮影を行われる場合には、ｱﾀｯﾁﾒﾝﾄﾚﾝｽﾞ取り付け部側からの有害光の進入を防ぐ様、注意深く遮光を行う事により、ｺﾞｰｽﾄ/ﾌﾚｱの発生を低減出来る可能性があります。ご確認ください。[この作業を行う場合、必ず「取付作業等を行うに当たって」をご確認頂き、内容にご同意下さい]